

当研究所でとりあげている「地域教育振興に関する研究」と「学習指導改善に関する研究」について、研究の趣旨・内容について理解を深めるとともに、学習指導改善の資料を提供する目的でつぎの内容により研究報告会をおこなった。

① 地域教育振興に関する研究の報告会

ア. 期日 昭和43年11月12日

イ. 参加者 本庁および教育事務所の指導主事、参加希望教員、約400名

ウ. 内容 研究の概要報告と授業公開

エ. 場所 伊達中学校、伊達、伏黒、箱崎小学校

② 学習指導改善に関する研究の報告会

ア. 期日 時和43年11月13日

イ. 参加者 本庁および教育事務所の指導主事

ウ. 内容 研究の概要報告と授業研究

エ. 場所 福島市立松陵中学校

5 全国教育研究所連盟共同研究参加 —学習指導の改善に関する調査—

全国教育研究所連盟において「学習指導の近代化」について共同研究を行なっている。その基礎的な調査として「学習指導の改善に関する調査」をとりあげたので、当研究所においてもこれに参加するとともに本県の実態をとらえるように調査計画を立て調査した。

(1) 調査の目的・内容

学習指導の近代化ということを、現場の教師がどのように受けとめているか、また、どのような指導観をもっているかは握し、学習指導改善のため基礎資料として役立てるため。

- ① 教材に関すること。② 児童・生徒に関すること。
- ③ 学習形態に関すること。④ 教授形態に関すること。
- ⑤ 学習指導の近代化に関する一般的な事項。

について調査する。

(2) 調査の方法

- ① 調査対象者は、県内小・中学校職員で、校長、教頭、養護教諭、事務職員などを除く。
- ② 抽出率を2.5%として、323人を抽出調査をした。その調査対象者の内訳は次のとおりである。
- ③ 抽出にあたっては性別による比例無作為抽出として、経験年数の層別も考慮する。

小学校 男(93人) 女(106人) 計 199人

中学校 男(89人) 女(35人) 計 124人

(3) 結果の考察

結果について一部をのせる。詳細については報告書を参照すること。

「学習指導の近代化」ということばから、あなたの感じはつぎのどれに最も近いか。という設問により次の選択肢によって調査した。その結果は次のとおりである。

ア. 指導内容の精選 イ. ひとりひとりの能力を伸ばす指導法のくふう ウ. 学習形態のくふう エ. 教科担任制をとりいれた教授組織 オ. 新しい教具をとりいれる。

全般的に「児童・生徒ひとりひとりの能力を伸ばす指導法をくふうすること」に対する反応が多く、その比率は、小学校40.7%中学校43.5%となっている。これについて、小学校は「指導内容の精選」29.1%、中学校は「学習形態のくふう」25.0%と「指導内容の精選」22.6%となっていて、指導内容を精選して重点的に指導することと受けとめているのが小・中とも約半程度である。

科学技術の急速な進歩発展に伴なう知識の量の増加の時代に対処する教育としての意識の一端を察知することができると思われる。小学校において、学習形態をくふうして

指導の効果を高めることと受けとめている意識が比較的すくないようである。

第3節 研修

研究所がおこなう教職員の研修は主として、長期的におこなわれる研修と、学校、地域の教育活動を推進させるため、特に教育研究法を習得することを目的とする研修で、本年度に実施した事業はつぎのとおりである。

I 長期研修

(1) 目的

研究所でとりあげている研究に現場の教員を参加させ、学習指導法および教育研究法を習得させ、学校および地域における教育活動の推進者とする。

(2) 研究内容

- ① 国語、社会、算数、数学、理科、英語についての教材研究
- ② 児童・生徒の認識・思考過程の分析
- ③ 望ましい学習指導法
- ④ 教科指導と生徒指導の統合
- ⑤ 小学校・中学校一貫した教育のすすめかた。

(3) 研究の場所

- ① 福島県教育研究所
- ② 「地域教育振興に関する研究」の実験校 伊達町立、小・中学校
- ③ 「学習指導法改善のための研究」の実験校 福島市立松陵中学校

(4) 研修の期間

昭和43年4月1日より昭和44年3月31日までの1ヵ年間

(5) 研修員

小学校教諭1名、中学校教諭3名、計4名で研究教科は、社会1、理科2、英語1である。

2 地域研修指導者養成講座

(1) 目的

福島県教育研究所条例による教員の研修で、教員の資質を高め、それぞれの学校、地域の教育活動を推進し、本県教育の向上発展をはかるものである。

(2) 研修期間

昭和43年5月20日より、昭和44年2月26日までの約1ヵ年間、ただし定期的に研究所に来所して研修は、この間24日(3日ずつ8回)である。

(3) 研修内容および方法

- ① 研修は、学習指導、生徒指導など実践上の諸問題から研究主題をえらび、教育研究所における講義、演習、相談、在職校(地域)での実験研究により、主として教育研究法、教育調査、教育方法について研究を深めた。
- ② 研究の主題は、国語、社会、算数、数学、理科、英語、生徒指導の中からえらんだ。
- ③ 研修の方法は、研究主題について、それぞれの学校、地域の教員と共同で実験研究をおこない、定期に来所して指導助言を受けるようにした。
- ④ 研究所での研修内容はつぎのとおりである。

ア. 講義

- (ア) 教育研究法
- (イ) 教育調査
- (ウ) 教育方法
- (エ) 教育心理